



2016年2月5日

各位

会社名 旭硝子株式会社  
 代表者名 代表取締役社長執行役員 島村琢哉  
 (コード番号：5201 東証第1部)  
 問合せ先 経営企画部広報・IR室長 小林純一  
 (TEL：03-3218-5603)

### 中期経営計画の進捗状況と「2025年のありたい姿」等について

旭硝子株式会社は、全てのステークホルダーに価値をプラスすることを経営方針 **AGC plus** に掲げ、マーケット視点と多様性を活かして売上高を拡大していくこと、メリハリある経営資源配分により資産効率を向上させていくことを中期経営計画 **AGC plus-2017** の経営課題として事業運営を行っています。この中期経営計画 **AGC plus-2017** の進捗状況と、グループビジョンの一部改定、新たに設定した「2025年のありたい姿」、利益配分方針の改定についてお知らせいたします。

#### 1. 中期経営計画 **AGC plus-2017** の進捗状況

**AGC plus**

私たちAGCグループは、

- 世の中に「安心・安全・快適」を
- お客様・お取引先様に「新たな価値・機軸」と「価値」を
- 従業員に「働く喜び」を
- 投資家の皆様にも「企業価値」をプラスする。

AGC plus-2017 2017年度 経営財務目標	
売上高	1兆6,000億円
営業利益	1,000億円以上
ROE	5%以上
D/E	0.5以下

AGCグループでは、経営方針 **AGC plus**のもと、各事業の収益性・成長性を基軸とした事業ポートフォリオにもとづく戦略の方向性とメリハリの効いた経営資源配分により、中期経営計画 **AGC plus-2017** の経営財務目標の達成を目指しています。

2015年度の売上高は1兆3,263億円と2017年までの目標に対して未達成であったものの、欧米建築用ガラス事業の業績改善や構造改革を進めた結果、営業利益は712億円と前年度621億円に対して増益となりました。従来は電子事業が全体収益の過半を占める状況でしたが、2015年度の営業利益に占める各セグメントの割合は、ガラス18%、電子40%、化学品42%となり、バランスのとれたポートフォリオ構造に着実に変化しています。

中長期の成長のための地固めとして2015年度には以下の施策を決定・実行しました。

2015年実施施策	
<b>成長</b> 	自動車用ガラス：メキシコ新工場、中国第3工場立ち上げ ポーランドNordGlass社（補修用ガラス事業）買収 電子：導光板事業に参入 化学品：ベトナムで塩化能力50%増強を決定 インドネシアでの自家発電所建設を決定
<b>キャッシュ創出</b> 	建築用ガラス（新興国）：タイLow-E生産能力50%増強を決定 液晶用ガラス：中国への液晶用ガラス業務移設を決定
<b>体質強化</b> 	建築用ガラス（先進国）：欧州の建築加工ガラス事業での構造改革推進 電子：PDP用ガラス、特殊ガラスの構造改革を推進

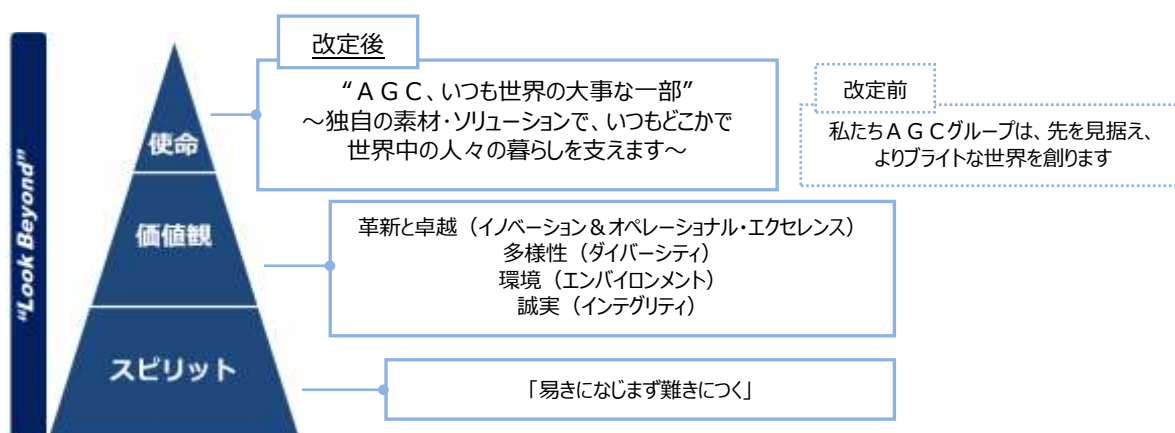
2016年以降も引き続き、中期経営計画 **AGC plus-2017** で設定した各事業の方向性に沿った事業運営を行い、それぞれの財務目標達成を目指します。



これまで行ってきた積極的な投資による2017年度の売上増として1,300億円（2015年度比）を見込んでいます。さらに環境対応型新冷媒、フッ素樹脂、ライフサイエンスなどの化学品事業、自動車内装用カバーガラスや光学部材などの電子事業、建築用Low-Eガラスや自動車用UVカットガラスなどのガラス事業の新製品拡販を着実に進めることにより、営業利益目標1,000億円以上の達成を目指します。

## 2. グループビジョンの一部改定

AGCグループでは、グループの全ての事業活動、社会活動を貫く企業理念としてのグループビジョン**“Look Beyond”**の中で、「私たちの使命・価値観・スピリット」を定めています。このうち「私たちの使命」は、AGCグループが世の中に提供すべき価値、グループの存在意義を示すものです。今般、「2025年のありたい姿」の策定にあたり、AGCグループが創業以来、世の中で果たしてきた役割、築き上げてきたお客様や社会からの信頼を踏まえ、「私たちの使命」を再定義しました。



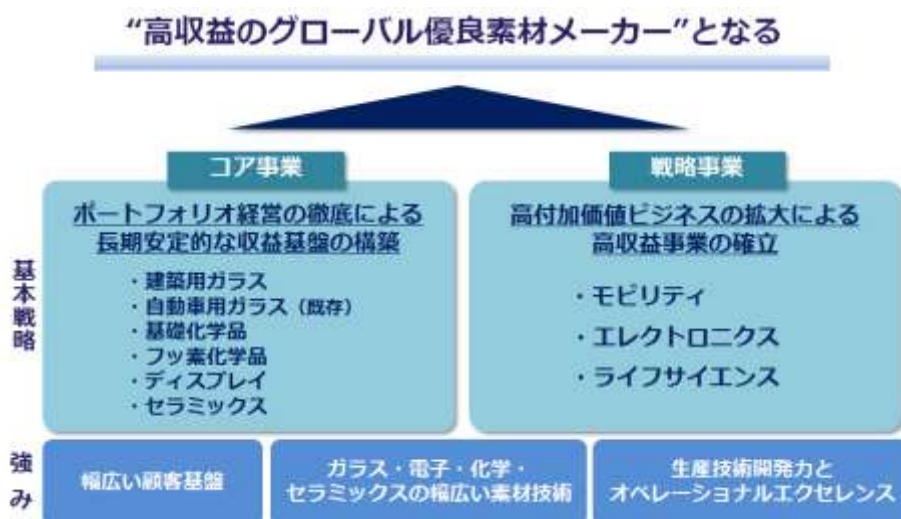
AGCグループは、幅広い素材・生産技術に基づく独自の素材・ソリューションを提供し、お客様と長期的な信頼関係を築き、お客様から最初に声がかかる存在であり続けます。そして、お客様や社会にとって“なくてはならない製品”を提供し続け、いつもどこかで、世界中の人々の暮らしを支えます。

### 3. 「2025年のありたい姿」

AGCグループは、2015年からの新経営体制のもとで、グループを取り巻く事業環境の変化を踏まえて、「2025年のありたい姿」とその実現のための長期経営戦略を定めました。

ガラス、化学、ディスプレイ、セラミックスといった長期安定的な収益基盤となるコア事業と、モビリティ、エレクトロニクス、ライフサイエンスをターゲット領域とした高い成長が期待できる戦略事業を2つの柱に位置付けています。

2025年のAGCグループは、コア事業が確固たる収益基盤となり、戦略事業が成長エンジンとして一層の収益拡大を牽引する、高収益のグローバルな優良素材メーカーでありたいと考えています。



2025年には、戦略事業の利益比率が2015年度に比べ2倍以上に拡大し、収益全体の40%を上回ることを目指します。中期経営計画 **AGC plus-2017** の最終年度にはROEを5%以上に、以降早期に8%以上を達成し、グローバル優良素材メーカーとしてのポジションを築きます。

上記に掲げた「2025年のありたい姿」の実現に向けた基本方針は以下の4点です。

- ①常にマーケット視点に立ち、お客様からの期待に応え、信頼を高め続ける
- ②コア事業・戦略事業とも、自律的成長に加え、戦略的なM&Aを大胆に行い、持続的成長を図る
- ③東南アジアと中東を面をつなぎ、アジア地域の高成長を取り込む
- ④メリハリのある経営資源配分を徹底し、資産効率の高い事業構造に転換する

コア事業については、ポートフォリオ経営の徹底によって、長期安定的な収益基盤の構築を目指します。特にアジア地域においては、既に展開しているタイやインドネシアなどでのガラス事業、化学品事業の基盤を東南アジアから中東（西アジア）まで面をつなぎ、アジア地域の成長を当社グループの成長機会として取り込んでいきます。

戦略事業においては、自動運転をはじめとする交通インフラの進化、すべてのモノや誰もがいつでもつながるI o Tの進展、医療・農業のさらなる高度化などのマクロ環境変化を事業機会と捉え、高付加価値ビジネスを拡大することで高収益事業の確立を目指します。

上記施策の実現のために、今後5年間の投資およびR&Dの合計予算枠1兆円に加え、コア事業および戦略事業双方を対象とし、M&Aを中心とした戦略投資枠3,000億円を新たに設定します。

#### 4. 利益配分方針の改定

AGCグループは、グループの長期戦略、ROEの向上、コーポレートガバナンス基本方針における政策保有株式に関する方針の検討を踏まえ、利益配分方針を改定することいたしました。

従来の利益配分方針は、安定的な配当の継続を基本として連結配当性向 30%程度を目安としていましたが、今後は、現在の 1 株あたり年間配当額（18 円）以上の継続を基本に、自己株取得を含めた連結総還元性向 50%以上を目安とし、連結業績や将来の投資計画等も総合的に勘案しながら、積極的に株主の皆様への還元に努めます。

財務体質の強化を図りながら企業価値の継続的な向上のための研究開発や設備投資・投融資、M&Aなどに必要な内部留保を確保しつつ、適正な自己資本水準の形成・維持を図ります。

AGCグループは、これまでも、これからも世界中の人々の暮らしを素材・ソリューションで支え続けるグローバル優良素材メーカーであり続けます。

以 上